

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0590700076		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく 3号館		
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20		
自己評価作成日	平成29年8月31日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご家族と密な連絡や相談、情報交換を行いながら利用者様が安心して、かつ、体調良好にホームでの生活を営めるような支援に努めております。職員は常に元気で明るい笑顔で利用者さんに対応するように心掛け、利用者様の穏やか表情や笑顔を引き出せる環境になる様日々努めております。利用者さんのペースに合わせ、利用者さんの想いを聴きながら居心地良く過ごせる様にも配慮しております。個々のニーズに合わせた外出支援も積極的に行っております。地域の方やご家族の方にもホームの行事(誕生会、夕涼み会、敬老会、避難訓練など)に参加していただき、交流と絆を深めるとともに、ホームの現状のご理解やご協力を仰ぐように努めております。また、全館24時間自動換気型空調システムとバリアフリーを備えておりますので、安全で快適に過ごして頂ける生活の場を提供しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

自分で布団を敷き、テレビを観たりしながら自分なりの生活環境をつくっている利用者もおります。利用者が生活習慣を変えることなく、自分のペースで生活しており、職員はその思いを大切に自立心を損なうことのないよう支援されています。また、ホームの行事では職員の子供も達が演芸を披露してくれたり、近所の子供も達が参加しやすいイベントを開催したりして触れ合いの機会をつくり、利用者の笑顔を引き出しています。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成29年11月17日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「いっしょのケア そして 理想を現実に」に基づき、個々の目標を決めたり毎月の目標を決めて実践に向けて取り組んでいる。ケアプランにも反映させ、利用者様との関わりにも生かしている。	一人ひとりのペースを大切に、自宅に居るような生活が送れるよう利用者を主体としたケアの実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と散歩に出た際は気軽に挨拶を交わすことができる環境になっている。子供会の廃品回収や地区の側溝清掃など地域イベントにも参加できるよう、また、当ホームイベントにも地域の方が参加して頂ける様、交流を深めている。	運営推進会議を通じて地域の情報を収集し、地域の一員として繋がりが持てるよう努力してきました。避難訓練の協力が得られ、ホームの行事には子ども達も参加しており、地域と関わっていけるよう取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	偶数月に運営推進会議を開催し、認知症の方の現状を伝えるとともに、ホームでの生活経験の中から支援の仕方について情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者様の状況や行事の報告をし、会議に参加した職員をはじめ、会議の議事録等で情報を共有し、ユニットミーティングで議題にするなどサービスの向上に努めている。	会議ではホームの現況に対する対応や取り組みを伝えていきます。参加者からの意見がサービスの向上に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議や、運営推進会議、グループホームネットワーク会、各種研修会などを通じて市町村担当との連携調整、情報交換や協力関係が取れるようにしている。	可能な限り研修や会議に参加して協力関係が築けるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種研修、社内研修などで身体拘束についての理解を深めるとともに、その時の状況に応じてどうすることが身体拘束に当たるのかなど職員間で伝達をしている。	状況に応じてミニカンファレンスを行い、ケアについて確認しながら身体拘束をしない支援が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に自施設での研修を行い、虐待が見過ごされないような環境づくりに努めている。職員間でも気になることがあったらお互い注意し合える関係性を築けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修で学ぶ機会を持つようになっているが、活用されている利用者様はまだいっしょやらない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族へ十分な説明を行ったうえで、疑問点等を尋ね納得して頂き同意を得ている。事前に見学していただき、グループホームを理解した上で入所できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価時におけるアンケートの実施に加え、日常的に意見や要望を聞き入れて改善できる体制を取っている。ご家族からの要望等があった場合は必ず職員に伝え改善できるように取り組んでいる。	面会時等に話を聞き、要望があった際には職員間で対応を検討しており、サービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループミーティングやユニットミーティング以外にも日常的に意見交換を行える状況を築けている。各職員から出された意見を調整会議で代表者に伝えている。	職員の意見、提案は各種会議を通じて代表者に伝わり、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H29.6～処遇改善、就業規則の見直しがあった。家庭環境に応じたシフトの配慮をしたり、研修参加に対しての配慮など環境改善に取り組んでいる。子連れ出勤の取り組みも実施中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じて研修への参加ができています。資格取得に向けて、研修の受講費の助成をしていただくなど協力体制ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修を通じて交流が図られており、介護サービスの向上に繋がっている。研修報告を通じて情報共有も出来ている。管理者のみならず、全職員の研修会の開催参加もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心してホームで暮らせるように要望等を傾聴し、ご本人様を知ろうと努め情報を職員で共有し良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用者様、ご家族様の不安が残らないように相談、要望等を聞き入れながら、安心感を持っていただけるような関係作りに努めている。ご家族様のアセスメント記入からケアに繋げている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様を人生の先輩として敬うことを忘れず接し、家事や軽作業等を手伝っていただけること、できることを大切に、活動する際は職員と共にコミュニケーションを図りながら行うようにしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	しやくやく通信でホームでの現状をお伝えしている。行事や面会、電話などでご家族の思いを把握し、その会話の中からご本人様を知る機会を増やししながら、共に支えていく関係づくりに努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了承を得た上で馴染みの方々と御面会いただいている。また、電話もしていただいている。家族と外出したり、美容室、かかりつけ医へ通院に行ったりしている。	入居時のアセスメントや家族からの情報を参考にし、本人の思いを大切にこれまでしてきたことが入居してからも変わらずにできるよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	得意分野を生かし、裁縫やブローなど他の利用者さんの為にあげたり、気の合うご利用者様同士が常に関わりあえるように支援している。様々な行事に参加したり、レクレーションなどで交流を深めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられて退居された方のご家族が、時々遊びに来てくださる。外出先で会った際会話や挨拶含め繋がりが途切れないような関係性、対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの方に合った生活ができるように可能な限り支援している。思いや行動を記録することで、把握し、本人の意向に沿うように努めている。	利用者との日頃の会話や行動から担当職員はじめ他の職員が気づきや利用者の思いが生活に反映できるよう記録し、共有しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方などはご家族やご本人からも普段の会話から聞き出し把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、業務日誌やケース記録に状況を記録している。状態の変化については日々のケース記録等で全職員が共有し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員の気づき、日々のケース記録を参照し、毎月モニタリングを行っている。それをもとにご家族様からも意向や要望を聞き入れながらケアプランを作成している。	担当職員が中心となってモニタリングを行い、家族の意向も確認した上で介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や業務日誌で情報を共有し、特に変わったことなどあった際は、必ず申し送りしその後の支援に生かしている。毎月ミーティングを開催することで改善策を抽出し、実践→モニタリング→変更内容をケアプラン見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアのマッサージを受けたり、出張してきてくださる近所の散髪屋さんなどでリフレッシュできたりしている。スーパーに買い物に出かけるなど日常生活を楽しめるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、歯科医、薬局等との協力体制ができており、利用者様の希望や体調等を考慮した支援ができています。月2回の往診に加え、体調不良の時は通院し、適切な医療が受けられるようにしている。	訪問診療を受けている利用者もおり、希望に沿って支援されています。協力歯科医からは年1回健診を受け、必要があれば訪問診療が受けられるよう支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月2回訪問してくれており、気軽に相談等出来ている。状態によっては受診につなげるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院のカンファレンスにはご家族の了承を得て同席し、現状や今後の方針について確認している。医師のみならず、看護師とも連携できるよう働きかけ、早期に退院できるように努めている。入院中、ご家族へ連絡しご本人の現状を聞く様にしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を聞きながら、主治医と相談し重度化した場合の対応について確認している。看取り希望の際は、毎日の面会と状況報告できる体制、環境整備等支援に努めている。	家族の意向に沿って支援されています。状態の変化に伴って対応できるよう取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習会に参加し、転倒骨折の際の対応や、意識不明になった時の対処、窒息時の対応、止血の方法などを学び実践できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得ながら、避難訓練を行っている。自動火災通報装置の設置に加え、地震や火災など様々な場面設定での訓練を行っている。地域の方に避難場所として自宅の一角の提供の了承も得ている。	地域の方にも参加していただいて避難訓練が行われ、法人内での連携も図れるよう取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩として尊重し、一人一人に合った対応を心がけ、不快に感じない言葉遣いや、態度、声のトーンを意識して接するように心掛けている。	利用者の性格を理解し、生活習慣も尊重して対応されています。利用者の気持ちに配慮できるよう職員同士の会話にも注意しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ選択してもらえるような場面設定を心がけ利用者様の意志によって決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にし、対応に心掛けている。外出したいと訴えられる利用者様に対しても出来るだけ時間を作って対応するようにしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の行きつけの美容院へ出かけてパーマや毛染めをしたり、普段着る洋服なども自己決定できるように支援している。季節に見合った衣類を着用できるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好き嫌いや嘔吐しやすいものなどを把握し、利用者さんに合わせた食事量や内容を提供している。食事の準備や片づけなど利用者様から積極的に手伝いに来てくださり日常的に一緒に行っている。	誤嚥等に配慮し、できる限り利用者の好きなものを提供できるように支援されています。家族と一緒に誕生日会を開催したり、行事の際には子ども達や地域の方々とも楽しめるように支援されています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録を参照し水分量の少ない方へはスポーツドリンクや、好みの飲み物で対応するなど水分確保に努めている。体調不良で食欲のない方にはご家族の了承を得て食べたいものを購入し栄養摂取できるように支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや場合によっては介助にて清潔保持に努めている。就寝前は義歯洗浄剤を使用し(週2回)清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムをつかみ、声掛けなどでトイレ誘導することで失禁を減らすようにしている。夜間はポータブルトイレを利用するなどトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	自立している利用者が多く、綿パンツで過ごしている方もおります。介助の必要な方もおりますが、その人毎のリズムを把握してトイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様に合わせた形態での食事を提供し、水分摂取してもらえるように努めている。適宜便秘薬の服用も行っている。無排便日数を把握し、下剤服用量調整も行い便秘予防に取り組んでいる。テレビ体操やラジオ体操も取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や健康状態を把握し間隔が空かないように、なおかつ希望に添えることができるようにしている。特定の職員でないと入らない利用者様の場合は業務を交換し入浴介助にあたることもある。	利用者それぞれの希望や状態に応じて支援されており、週2～3回入浴されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テーブル席で居眠りしている方への昼寝の声掛けや寝床で不安を感じられる方には職員が近くにいるソファで休養にいただくなど、柔軟に対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬写真で処方時毎に確認している。疑問に思っていることがあれば、病院医師、薬剤師に確認するなど、服薬支援に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事など、利用者様の力量に合わせてお手伝い頂いている。ドライブや散歩、将棋、ぬり絵、読書(新聞)、間食など、自分がしたい時に自由にできることで、気分転換にもつなげている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近隣散歩は行っている。本人の希望を聞いて、一時在宅帰省、芝居見学や外食など外出先の施設の方の協力を得ながら支援している。買い物同行もしていただいている。季節に合わせた花見、紅葉見学等外出支援に努めている。	遠出を含め、家族との外出や買い物、散歩等、希望に沿って外出できるように支援されています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為各利用者様の現金所持はないが、買い物時に見守りにて支払いをお願いすることはある。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの要望があれば、子機を使用していただき、お部屋でゆっくり話をしていただくなど、プライバシーにも配慮し、日常的にできる環境を提供している。手紙要望の際は、家族間等やりとりできるような環境配慮援助を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく暮らせるようにきれいに掃除するよう心掛けているとともに、においや眩しすぎる光に対してなど不快な思いをしないように配慮している。行事の写真を廊下に張ったり、食堂や洗面所に花を飾ったりして楽しんでいただいている。	全館空調管理され、清潔に保たれています。通行に障害となるものを置かないようにして安全に過ごせる環境をつくっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを設置して自由に過ごせる空間作りをしている。ソファでテレビを見たり、テーブル席で本や新聞を読まれたり、会話をされたり、思い思いに過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用されていた家具や小物等を居室内に配置することで自分の部屋だと認識でき、安心していただいている。	中央に畳を配した広い居室です。利用者それぞれが必要なものを持ち込み、過ごしやすいように自分で管理して生活環境を整えている方もおり、一人ひとり個性のある居室となっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで廊下、トイレ、浴室には手すりが完備されている。できない部分をお手伝いし、できるだけ自立した生活が送れる様支援している。適宜センサーを活用し転倒予防に努めている。居室やトイレが分からない際は、声掛け誘導援助を行っている。		